

海洋高等学校 新聞広報

平成23年5月10日 (火)

○カキの種付け (2年生集中実習：栽培環境コース)

文部科学省指定「目指せスペシャリスト事業」の取組として、生徒が地域漁業の現場に出かけ、第一線で活躍するプロの漁業士の方から直接指導をいただきました。



産経新聞 (丹波丹後版)

カキの種付けに挑戦

宮津の海洋高 京丹後で交流実習

漁業に対する生徒の理解や関心を深めようと、府立海洋高校(宮津市)は9日、漁業士から指導を受けながらカキの種付け作業を実践する「交流実習」を、京丹後市久美浜町の養漁業



ホタテの殻に付着したカキ種苗をロープに付ける生徒たち=京丹後市久美浜町

その後、船に乗り込み、久美浜湾内のイカタにロープを設置した。参加した川奈部俊さん(16)は「カキは、ロープにしっかり付けないと波に流されてしまうので、神経を使います」と話していた。

読売新聞 (京丹後丹波版)

府立海洋高校(宮津市)で魚の養殖技術を学んでいる栽培環境コースの2年生16人が9日、京丹後市久美浜町の久美浜湾を訪れ、養殖カキの種付け作業を体験した。漁師たちから直接指導を受け、現場の作業を学ぶ「交流実習」の一環。カキの種付けは養漁業協同組合(和田市郎

大きくなれカキ種付け

組合長)の協力で2006年から実施している。養殖カキは、イカタからマガキの稚貝をロープでつるして海中に沈めて育てる。稚貝はホタテの貝殻に付着させ、種付けはロープに貝殻を付け沈めた。東郷也さん(16)は「種付けを初めて行ったが、学校では学べない貴重な体験となった」と話していた。



マガキの稚貝がついたホタテの殻をロープに取り付ける海洋高生(京丹後市久美浜町で)